

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Blossamジュニア 玉里教室			
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年2月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日 ～ 令和7年2月7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育プログラム（にこにこタイム）では、お子さま一人ひとりの特性に合わせて、経験豊富なスタッフが専用ルームにてマンツーマンでサポートを行います。心身の発達や行動、日常生活、言語、コミュニケーション、学習の各面にわたり、きめ細やかな支援を提供します。	・一律の方法ではなく、お子さま一人ひとりのペースに寄り添った指導を心がけている。 ・専用ルームを活用し、集中しやすい環境を整えることで、お子さまが安心して療育に取り組めるよう配慮している。 ・マンツーマンのサポートを通じて、お子さまが成功体験を積み重ね、自信を育めるよう配慮している。	・保護者との面談を増やし、家庭での様子や課題を療育に反映することで、より実生活に即した支援を行っていく。 ・家庭でも実践できる療育のアイデアを提供し、継続的かつ一貫した支援ができるよう努める。
2	集団療育プログラム（なかよしタイム）では お友達や先生との共同活動を通じて、社会性やコミュニケーション能力を育みます。ソーシャルスキルトレーニングやアール性のある運動療法など、多彩なプログラムを提供しています。	・ルールを理解し、適切な行動をとれるよう学ぶ機会を設け、状況に応じた対応力が身につくよう工夫している。 ・お子さま一人ひとりの特性に合わせて、難易度や内容を柔軟に調整しながら実施している。 ・楽しみながら学べる環境づくりを意識し、無理なく社会性やコミュニケーション能力が身につくよう工夫している。	・活動後に「今日の学びや気づき」を話す時間を設けることで、社会性を養うとともに、自身の成長を実感できるようにする。 ・「よかったこと」や「次回チャレンジしたいこと」を振り返り、成長の過程を可視化する。
3	言語聴覚士による専門的な療育 言語やコミュニケーションに関する悩みを持つお子さまに対し、言語聴覚士が個別および集団の療育プログラムを実施します。これにより、「聞く」「話す」「理解する」といったコミュニケーション能力の向上を支援します。	・個別療育では、それぞれの課題に応じたオーダーメイドのプログラムを実施し、お子さまのペースに合わせた指導を行っている。 ・お子さまが日常生活で活かせるよう、実際の場面を想定した対話練習を取り入れている。	・保護者向けのフィードバックや相談の機会を設けることで、家庭でも一貫したサポートができる環境を整える。 ・家庭でも実践できる言語トレーニングのアドバイスを提供し、継続的な支援を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に関わった事業運営を推進していく。	・地域には自治体など、連携できる資源があるにもかかわらず十分に活用できていない。 ・地域の支援機関とのつながりが弱いため、支援の幅を広げるための施策が必要。	・地域との交流を通じて、実践的なコミュニケーションや社会参加の機会を増やす。
2	保護者同士が交流できるイベントや講習会の機会を設ける。	・保護者間で子育ての経験や知識を共有する機会が作れていない。 ・保護者が交流できる場がなく、参加しやすいイベントの企画ができていない。	・保護者が関心を持ちやすい話題（例：子どもの発達、学習支援、栄養について）を選ぶ。 ・保護者同士のつながりを促進するために、グループワークや座談会形式を取り入れる。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
Blossamジュニア 玉里教室		令和7年2月28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			生活空間は児童がわかりやすい環境（視覚的支援）になっている。安全面及び衛生面に配慮した構造化を図っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			活動毎に清掃、消毒を徹底している。生活空間は児童がわかりやすい環境になっている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			業務改善(PDCAサイクル)は職員で話し合いながら進めている。朝礼及び終礼で活動の打合せを行い、児童の様子や活動に対する反省を共有している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			評価の結果を真摯に受け止め、改善に向けて努力していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○			法令研修の実施、動画等で職員が学べる環境を構築している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			適切に支援プログラムを作成している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			定期的に保護者と面談を行い、保護者のニーズを理解、把握に努め支援計画を作成している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			職員間に共有され、計画に沿った支援が行われている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			発達支援は具体的な支援内容（本人支援の5領域）を設定している。今まで以上に保護者様、関係機関との連絡を頻繁に取り、「家族支援」「地域支援」を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			支援会議で意見交換をしながら立案を行っている。より良い活動になるように取り組んでいる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			子ども達の特性や成長、興味に考慮しながら工夫している。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の状況に応じて個別療育の内容を立案し活動を行っている。	個別活動で取り組む課題を一人一人の成長に合わせて計画している。また、集団活動の中での目標も一人一人に合わせて設定している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			毎朝、ミーティングを行い、支援内容、役割分担を確認している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			・毎日、反省会（情報の共有）を活動終了後に行っている。問題点については意見を出し合い、解決に向けてどうすれば良いか話し合っている。 ・参加できない職員がいるため、改善に取り組んでまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		専門システムを使用して社員間の情報共有を行っている。	ケア記録を取り、支援の検証、改善に繋げている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			定期的に支援会議を行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			関係機関と連携している。電話及び訪問を行っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			担当者会議の中で児童の実態を伝え合い情報共有を行っている。定期的に連絡をとり、今後も相互理解に努めていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			担任の先生と事前に情報を共有している。連携会議で情報を共有している。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			今後は児童発達支援センターとの連携を図り、助言等をいただいております。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			日々の状況について保護者様との連絡を頻繁に行い、共通理解を持つようにしている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		面談の中で保護者の悩みに寄り添い、一緒に考えたり、解決法を提案したりしている。今後はペアレント・トレーニングに力を入れて取り組んでいく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時に説明、変更があればその都度、説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			保護者に「児童発達支援計画」を示し、保護者の同意を得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			定期的に保護者様との面談実施、保護者様と関係機関の連携を強化していく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		親子で参加できるイベントを企画し、保護者同士の交流の場を提供できるようにする。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			児童及び保護者からの相談や意見は真摯に受け止め迅速に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			毎月、教室だよりを発行している。活動概要や行事予定が分かるように工夫している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			個人情報の取り扱いは十分に注意している。職員間でチェックしている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童への情報伝達は白板、イラスト等でわかりやすく表示しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		中学生の職場体験の受入れを行っている。地域住民と交流や活動が出来るように、地域の行事に参加したり、地域の方を招いて行う活動を計画していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			職員全員で対応できるように話し合いや訓練を行います。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			定期的に様々な場面を想定して避難訓練を行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			保護者からアセスメント時に状況を確認している。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			現在、アレルギーのある児童はいないが、アセスメント時に保護者へ確認を行って対応している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			十分な安全管理のもとで支援を行ってまいります。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画に基づく取り組み内容について、保護者様への説明を行ってまいります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			ヒヤリハットを作成し、改善点を話し合い実行している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			職員会議で虐待防止の確認、定期的に研修及び委員会を開催していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			職員会議で身体拘束の確認を行う。定期的に研修及び委員会を開催していく。